

平成27年人文学部
教員研究業績一覧（2015. 1. 1-12. 31）
Academic Achievements in 2015: Faculty of Arts

凡例：

氏名

①著書

②論文・研究ノート

③翻訳

④芸術創作

⑤書評・随筆等

⑥学会・研究会等での報告

⑦上記以外の業績

篠原成彦

②「手短な独我論論駁」、『信州大学人文科学論集』 2, pp.1-8。

早坂俊廣

③ 1) 「王畿『龍溪王先生会語』 訳注 其の十九」(『白山中国学』 第21号, pp.35-65) [共著] 2) 「王畿『龍溪王先生会語』 訳注 其の二〇」(『東洋古典學研究』 第40集, pp.51-78) [共著]

⑥ 1) 「“婺学”一場所的叙述」(宋代史座談会, 3月15日, 中国浙江省社会科学院) [単独・国際] 2) 「語らない周夢秀を語る—王畿と嵯県の周氏—」(国際シンポジウム「王畿の良知心学と明末の講学活動」, 8月23日, 東洋大学) [単独・国際]

⑦ 1) 講演「日本人眼中的浙江」「日本人眼中的儒学」(3月11・17・18日, 中国杭州師範大学国学院) 2) 銭明氏講演論文「良知心學と明代中晩期の講会運動」の翻訳(国際シンポジウム「王畿の良知心学と明末の講学活動」, 8月23日, 東洋大学) 3) 申緒璐氏講演論文「楠本碩水の『朱王合編』について—並木栗水と楠本碩水—」の翻訳(国際ワークショップ「江戸期における漢学者たちの人間観の特色—中国との比較—」, 8月26日, 東洋大学国際哲学研究センター)

三谷尚澄

② The Return of the Dad: On Millikan-Brandom Debate about the Legacy of Wilfrid Sellars (Sinshu Studies in Humanities, No. 2, pp.31-41) [単著]

⑤ 1) 「共同討議 I 「カントと教育の問題」 趣意」(『日本カント研究』, 第16号) [単著]

2) 「〈生きる意味〉を求めて」(『生きること, 悼むことを考える』, 浄土真宗本願寺派総合研究所 現代宗教課題研究部会, 本願寺出版社, pp.9-46)

- ⑥ 1) What Do We Do When We Are Engaged in Comparative Philosophy? (ICR Symposium, Philosophy across Cultures: Transmission, Translation and Transformation of Thought, University of Tsukuba, Japan, 2月6日) [単独・国際] 2) 「表出主義的プラグマティストの真理観」(関西哲学会, 課題研究発表「真理論」提題, 京都大学, 10月25日) 3) On the philosophical grammar of perception: A Sellarsian approach (The 1st International Workshop on Comparative Philosophy of Perception, Shinshu University, 11月15日) [単独・国際]
- ⑦ 1) 「研究室おじゃまします」(信濃毎日新聞研究室紹介記事, 6月26日朝刊, 22面) 2) 「哲学しててもいいですか?」(哲学カフェ@松本「松本を哲学する」, 信毎新松本本社まちなかプロジェクト, 松本市民芸術館, 9月26日) [単独] 3) 長野県看護協会実習指導者養成講習会講師(長野県看護協会, 11月5日, 10日, 17日, 18日) [単独] 4) 科学研究費補助金(基盤研究C)「セラーズの哲学と20世紀英米圏における実在論哲学の影響関係をめぐる研究」に基づく研究を研究代表者として実施

護山真也

- ② 1) 「仏教認識論と〈所与の神話〉」, 『信州大学人文科学論集』第2号(通巻49号), pp.43-56 [単著] 2) 「ラトナキールティ著『主宰神証明の論駁』和訳研究(中)」, 『南アジア古典学』第10号, pp.143-171 [単著] 3) “Toward a Better Understanding of Ratnakīrti’s Ontology,” *Nagoya Studies in Indian Culture and Buddhism Saṃbhāṣā*, 32, pp.47-59. [単著] 4) “A Comparison between the Indian and Chinese Interpretations of the Antinomic Reason (*Viruddhāvyaḥicārin*),” Chen-kuo Lin & Michael Radich (eds.), *A Distant Mirror*, Hamburg University Press, pp.121-150.
- ⑥ 1) “*Adhyavasāya* and Imagination” (International Workshop, Philosophy across Cultures, Tsukuba University, 3月6日) [国際・単独] 2) “Prajñākaragupta’s *sattopalambhavāda*: An inquiry into an Indian version of “*esse is percipi*” (16th World Sanskrit Conference, Renaissance Hotel, Bangkok, 6月30日) [国際・単独] 3) 「ラトナーカラシャーンティの形象虚偽論とその周辺」(「ラトナーカラシャーンティの『般若波羅蜜多論』新出梵語テキストの研究」集中研究会, 龍谷大学, 8月4日) [国内・単独] 4) “A Comparative Philosophical Approach to Dharmakīrti’s Analysis of Perceptual Error” (International Workshop: Comparative Philosophy of Perception, Shinshu University, 11月15日)

濱崎友絵

- ② 1) 「近代西アジアの音楽とヨーロッパ音楽との交渉：トルコを中心に」, 『デジタル・シルクロード音楽編』(国立情報学研究所 <http://dsr.nii.ac.jp/music/> 2015年3月) [単編著] 2) 「トルコにおける『アラベスク』の誕生と展開」, 『信州大学人文科学論集』第2号, 2015年3月, pp.9-29. [単著]
- ⑥ 1) 「オスマン軍楽とヨーロッパの『トルコ風』音楽—モーツァルトの「トルコ行進曲」はどのように生まれたのか—」(信州大学人文学部公開講座, 第68回 夕べのセミナー, 松本市中央公民館Mウイング, 2015年2月7日) [単独] 2) “Nationalization and Westernization in two Music Cultures: Turkey and Japan” (The International Conference on the

Cultural Legacies of World War, King's College London, UK, 2015年5月21日) [国際・単独]

⑦1) 「オペラの前に『から騒ぎ』」(信州大学人文学部重点計画, セイジ・オザワ松本フェスティバル協同事業 Vol. 1, 公開講座, 松本市民芸術館小ホール, 2015年7月7日) [協同]

2) 「教えて! 音楽のレシピ」(信州大学人文学部×セイジ・オザワ松本フェスティバル協同事業 Vol. 2, レクチャー・コンサート, 松本市民芸術館小ホール, 2015年8月9日)

[協同] 3) 「楽都・松本の育み方—みんなで考えるセイジ・オザワ松本フェスティバルの明日」(信州大学人文学部×セイジ・オザワ松本フェスティバル協同事業 Vol. 3, 公開講座

シンポジウム, キッセイ文化ホール国際会議室, 2015年11月15日) [協同] 4) 日本学術振興会科学研究費(若手研究B, 課題番号: 25770039)(平成25年度~平成27年度)「現代トルコにおけるロマの音楽伝承をめぐる実態研究—スルクレ地区を事例として」研究代表者

5) 東洋音楽学会東日本支部委員(2014年12月~現在に至る)

金井直

①1) 金井直監修『女性の表象学』(「ロザルバ・カッリエーラ」を分担執筆, ありな書房) [共著] 2) 『キュレーションの現在』(分担執筆, フィルムアート社) [共著]

②1) 「チョウコク あるいは, 弱い触覚」(『ヒトのカタチ, 彫刻』展覧会図録, 静岡市美術館, pp.8-13) [単著] 2) 「重力と恩寵の環—大西康明の彫刻」(『大西康明—空洞の彫刻』展覧会図録, アートコートギャラリー, pp.24-31) [単著]

④ 「あいちトリエンナーレ2016」キュレーター(あいちトリエンナーレ実行委員会主催)

⑤ 「芸術は自分を知覚するシステム展」展評(『REAR』No.35, pp.130-31)

⑥1) 「石膏像へのまなざし」(シンポジウム「石膏像のこれから—今日の美術における模写, 模倣再考」, 新潟大学附属図書館, 4月11日) [単独] 2) 「アルテ・ポーヴェラの古色と抗老化」(シンポジウム「過去の現在の未来—アーティスト, 学芸員, 研究者が考える現代美術の保存と修復」, 国立国際美術館, 12月5日) [単独]

⑦1) トークセッション「ヒトのカタチ, 彫刻」(静岡市美術館, 2月15日) 2) 作品見学ツアー「アーツ・チャレンジ2015」ナビゲーター(愛知芸術文化センター, 2月17日)

北村明子

④1) 「route 1 永遠と1秒の間」演出・振付・構成, 芸術文化振興基金助成事業, Tokyo Salon KYOZON, 2015. 3/28・29 2) 信州大学平成26年度文化庁文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業「共時と創発」総合プロデュース, 茅野市民館・まつもと市民芸術館・信州大学人文学部, 2014. 7. 1~2015. 3. 31 3) 【協同・国際】「Transenses」, 演出・振付・出演, 科学研究費挑戦萌芽研究 助成事業, Hexagram Concordia University, 提携 Sense Lab, Montreal 2015. 6. 29

⑤ 「共時と創発」信州型舞台芸術マネジメント教育プログラムⅡ 活動報告書, 2015. 2. 25, pp.30-31 32頁

⑥1) 【協働・国際】「TranSenses」: Performance: Improvised Movement in Responsive Environment - for solo dancer, real-time audio-visual processing, floor projection, and spatialized soundfield, 科学研究費挑戦萌芽研究 助成事業 Hexagram Concordia University, Montreal

2015. 6. 29

⑦1) 「地域の魅力を世界とつなぐ信州発アートプログラム」, 信州大学企画, SBC 信越放送, 2015. 2. 1 2) 資生堂銀座ビル ウィンドウディスプレイ, 戎康友 花椿 “Woman” 写真展 パフォーマンス撮影コンテンツ提供, 資生堂ギャラリー主催, 2015. 4. 1~6. 30

菊池聡

①『ワードマップ批判的思考』新曜社 [分担執筆]

②『錯覚と絵画のための心理学』教育美術, 76巻, 第4号, p.30-33[単著]

⑥1) 「高齢者の疑似科学信念と健康法への態度 —科学的に疑わしいという批判をどう受け止めるか—」日本教育心理学会第57回大会, 8月26日, 新潟大学 [共同] 2) 「超常信奉と疑似科学を思考の二重性から見直す」日本心理学会第79回大会, 9月23日, 名古屋大学 [単独]

⑦1) 「だまされる心の心理学」(長野県司法書士会研修会: 信州大学出前講座, 1月9日)

2) 「だまされる心の心理学」(茅野市公民館: 信州大学出前講座, 2月13日) 3) 「なぜ疑似科学を信じるのか」(飯山高等学校探究科 SSH 講演会, 4月30日) 4) 「ポジティブに生きるための心理学」(佐久学校事務研究協議会夏期セミナー: 信州大学出前講座, 7月30日) 5) 「心理学からのクリティカルシンキング入門」(平成27年度教員免許状更新講習, 8月1日) 6) 「怪しい情報にだまされないための思考法」(心理学カフェ, 9月12日, 郡山市) 7) 「だまされる心の心理学」(第3回島内農業文庫講座: 信州大学出前講座, 9月15日) 8) 「おたくと呼ばれる若者たち」(大学出前講座: 飯山高等学校北キャンパス, 9月30日) 9) 「ポジティブに生きるための心理学」(信州大学地域保健推進センター健康講座, 11月10日, 信州大学保健学科) 10) 「やる気を引き出すための心理学」(信州大学付属松本中学校 PTA 講演会: 信州大学出前講座, 11月13日) 11) 「だまされる心の心理学」(大庭公民館冬期講座, 11月14日) 12) 「ポジティブに生きるための心理学」(NPO 法人松本学童クラブの会研修: 信州大学出前講座, 11月20日) 13) 「災害やストレスに負けない逆境力—ポジティブに生きるための心理学—」(信州大学総務部学内講演会, 12月9日) 14) 「ポジティブに生きるための心理学」(総務省長野行政評価事務所職員研修: 信州大学出前講座, 12月14日) 15) 「千曲川犀川流域を対象としたタイムライン検討会」国土交通省千曲川河川事務所, 座長, 10月27日

佐藤広英

②1) 「観光動機の違いによる情報の収集と発信」(地域ブランド研究, 10, 13-27) [共著]

2) 「情報プライバシーの測定: プライバシー次元尺度 (MPS) の作成」(パーソナリティ研究, 23, 171-179) [共著] 3) 「高校生のインターネット上のける情報プライバシーの実態」(信州大学人文科学論集, 2, 57-66) [共著]

⑥1) 「SNS 上における対人魅力に影響を与える要因の検討」(日本パーソナリティ心理学会第24回大会, 北海道教育大学, 8月21日) [単独] 2) 「学会サイト間の比較」(日本パーソナリティ心理学会第24回大会シンポジウム「学会ウェブサイトのベンチマーキングの試み」) 話題提供者, 北海道教育大学, 8月22日) [単独] 3) 「大学生の SNS における対人ス

トレス：社会的ネットワークとの関連」(日本教育心理学会第57回総会, 新潟コンベンションセンター, 8月27日) [共同] 4) 「Switching IATによるストレス状態の測定：汎用化に向けた簡便な測定手続きの検討」(日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場, 9月22日) [共同] 5) 「インターネット上での他者情報公開の特徴」(日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場, 9月22日) [共同] 6) 「関係予期が未知の他者への自己情報公開を規定する要因に与える影響：情報公開の程度に着目して」(日本グループ・ダイナミクス学会第62回大会, 奈良大学, 10月11日) [共同]

⑦ 1) 「安曇野観光における情報資源に関する実態調査」(平成26年度安曇野市受託研究報告書, 2015年3月) [共著] 2) 「SNSと人権：大学生のSNSトラブルの実態とその対応策」(奈良大学人権委員会報告書, 2015年3月) [単著] 3) 社会言語科学会・学会誌編集委員会委員 (2013年4月～2016年3月) 4) 日本パーソナリティ心理学会・学会誌編集委員会委員 (2014年10月～2017年10月), 各種電子化検討小委員会委員 (2014年4月～2015年10月) 5) 「潜在連合テストを用いた新たな心理的・身体的ストレス測定法の開発」(科学研究費補助金若手研究(B)研究代表者 (～2018年3月)) 6) 「高齢者のインターネット上でのプライバシー意識に関する心理学的研究」(社会安全研究財団若手研究助成研究代表者 (～2016年10月)) 7) 「情報の効果的な発信を学ぶ」(信州大学地域戦略プロフェッショナルゼミ「芸術文化の未来学 第12回」, まつもと市民芸術館, 2月14日) 8) 「プライバシーに関する心理学研究の実例と展開の可能性」(第4回 NICT プライバシーワークショップ, 情報通信研究機構, 2月23日) 9) 「安曇野観光における情報資源に関する実態について」(安曇野市・信州大学人文学部連携協定委託研究報告会, 穂高交流学習センター「みらい」, 3月26日) 10) 「情報メディアの心理学」(平成27年度教員免許状更新講習, 信州大学, 8月1日) 11) 「ネット利用とプライバシー」(東洋英和女学院大学メディアコミュニケーション研究所講演会, 10月20日) 12) 「インターネットの心理学」(信州大学出前講座, 東京都立大学塩尻高等学校, 11月4日)

水原俊博

① 水原俊博, 2015, 「消費主義者の政治問題関心——私生活化の展開／からの転回？」 間々田孝夫編『消費社会の新潮流——ソーシャルな視点, リスクへの対処』立教大学出版会, 53-66, [単著]

② 水原俊博, 2015, 「松本市の多文化共生の問題構成——日本国籍住民に対する2014年調査の結果の中間報告」『地域ブランドオフィス』10: 1-11, [単著] 水原俊博, 2015, 「後期ボードリヤールのポストモダン情報社会論——N. ボルツのメディア理論との接合を目指して」『信州大学人文科学論集』2: 81-89, [単著]

⑥ 水原俊博, 2015. 6. 19, 「メディア表象と社会的実在——情報化不可能性を中心に」, ハイパーメディアリアリティ研究会 (第2回), 於: 立教大学, [単独]。

水原俊博, 2015. 11. 4, 「社会的現実の情報化＝仮想現実化——後期ボードリヤールとヴィリリオ」, ハイパーメディアリアリティ研究会 (第9回), 於: 立教大学, [単独]

⑦ 1) 【事典の項目】 水原俊博, 2015, 「記号消費」「記号論」「文化資本」経済社会学会編, 富永健一監修『経済社会学キーワード集』ミネルヴァ書房, 29-34, 258-263, [単著] 2)

【報告書】水原俊博, 2015, 「消費社会的価値意識と消費主義的態度——東京2010年調査と上海2014年調査の試論的比較検討」間々田孝夫編『ポスト・アメリカ化時代の消費社会分析——日中同時調査に向けて』立教 SFR 研究成果報告書, 79-89, [単著] 3) 【受託研究】防災・減災に対する松本市住民の意識と行動に関する社会調査, [共同] 4) 【学会運営】経済社会学会年報編集委員長 (常任理事)

澤木幹英

⑥ [協同・国際] Practical and academic assets of multimedia dialect dictionary based on sentence-based corpus, (Chitsuko Fukushima, Yumi Nakajima と協同), 2015年9月11日, Famagusta, Cyprus

⑦最終講義「ビッグデータと私」, 2015年2月8日, 松本市Mウイング

辻竜平

①「第2章 人間関係：都市と農村にどのような格差があるのか」, 山田昌弘, 小林盾編著, 『データで読む現代社会：ライフスタイルとライフコースの未来形』, 新曜社。[共著]

②「口承文芸のヴァリエーションの類似性と通婚圏との関係：新潟県旧栃尾市で採取された『三枚のお札』の分析」(『信州大学人文科学論集』2, pp.67-79。) [単著]

⑥1)「寛容性尺度の構成と妥当性の検討」(3月14日, 数理社会学会第59回大会, 久留米大学) [単独] 2) “Museum Visiting Networks: Differences in Visiting Patterns between Citizens and Visitors” (June 27, Sunbelt XXXV, Hilton Brighton Metropole Hotel on the beachfront of Brighton, UK) [単独] 3) 「定住外国人への態度に対する寛容と信頼の効果：松本市調査から」(9月19日, 日本社会学会第88回大会, 早稲田大学) [単独] 4) 「誰が集团的自衛権を容認しているのか? : 2014年松本市調査より」(11月1日, 日本社会心理学会第56回大会, 東京女子大学) [単独]

⑦「新潟県中越地震からの復旧・復興に見る人間関係の問題と予防策」(「山ノ内町解放講座」, 10月20日) 日)

茅野恒秀

①1) 『ゴーストタウンから死者は出ない：東北復興の経路依存』(小熊英二・赤坂憲雄編著, 人文書院, 全313頁, 第7章「再生可能エネルギーの意志ある波のゆくえ：エネルギー政策の経路依存と構造転換」185-210頁を執筆) [共著]

②1) 「東日本大震災津波被災地における生活復興過程：2011年と2013年の大船渡市民横断調査をもとに」(『総合政策』17(1): 21-39) [共著]

⑤1) “In Memoriam: Harutoshi Funabashi” (『Newsletter of International Sociological Association Research Committee on Environment and Society』No.46: 6-9) [単著]

⑦1) 『中山間地域における自然資源管理と地域づくりをめぐる諸問題：2014年度社会調査実習報告書』(信州大学人文学部社会学研究室, 全185頁) [編著] 2) 『エネルギー政策と地域社会(9)福島原発震災被災地の現状と地域再生をめぐる諸問題：2014年度政策研究実習報告書』(法政大学社会学部船橋晴俊研究室, 全196頁) [編著] 3) 『核廃棄物管理・処分政

策のあり方』（原子力市民委員会核廃棄物問題プロジェクトチーム特別レポート、全51頁）
 [編著] 4) シンポジウム「地域エネルギーと低炭素社会の創造」（1月25日、みなかみ地域エネルギーフェスタ、新治農村環境改善センター） 5) ファシリテーター「志賀高原エネスコエコパークワークショップ」（3月22日、山ノ内町、山ノ内町中央公民館） 6) 講演「再生可能エネルギー政策と地域コミュニティ」（5月7日、自然エネルギーネットまつもと学習会、松本市大手公民館） 7) 講演「事業性と地域性が両立した再生可能エネルギー事業」（5月21日、自然エネルギーネットまつもと学習会、松本市大手公民館） 8) 講演「資金調達と地域の経済活性化への貢献」（6月4日、自然エネルギーネットまつもと学習会、松本市大手公民館） 9) 講演「自治体と住民が取り組むべきことを考える」（6月18日、自然エネルギーネットまつもと学習会、松本市大手公民館） 10) コーディネーター「どうする?!核のゴミ：最終処分と合意形成を考える日独シンポジウム」（7月31日、核のゴミ最終処分と合意形成を考える日独シンポジウム実行委員会、日比谷図書文化館） 11) 講演「コミュニティ・エネルギーと持続可能な地域」（10月1日、安曇野市市民大学講座、安曇野市穂高会館） 12) 講演「宮田村の自然環境がもたらす恵みと廃棄物最終処分場問題」（10月23日、宮田の環境を守る会、宮田村民会館） 13) 講演「放射能汚染された廃棄物：管理と最終処分の問題点」（11月30日、駒ヶ根水と命を守る会、一心館） 14) 講演「地産エネルギーによる地域コミュニティの展望と戦略」（12月27日、再生可能エネルギー草の根普及プロジェクト2015、いわて県民情報交流センター）

今井章

- ② 1) 「デルプーフ錯視からリップス大きさ錯視へ—内円が外円の外に移動する条件における事象関連電位の検討—」信州大学人文学部人文科学論集, 2(49), 91-105頁 [単著]
- ⑥ 1) 「嗅覚刺激が感情評定と生理反応に及ぼす影響」日本生理心理学会第33回大会発表発表予稿集, 50-50頁 (5月24日, 大阪グランフロント) [共同] 2) 「楽曲の構成要素が聴取者の感情と EEG に与える影響」日本認知心理学会第13回大会発表抄録集, 162-162頁 (7月5日, 東京大学) [共同] 3) 「デルプーフ錯視からリップス大きさ錯視へ(2)—同心円錯視の外円布置の違いによる事象関連電位—」日本心理学会第79回大会発表論文集, 558-558頁 (9月23日, 名古屋国際会議場) [単独]
- ⑦ 1) 独立行政法人自動車事故対策機構長野支部平成26年度運行管理者等基礎講習講師「運転者の心理『自動車運転者の適性管理について—安全運転のために—』」(1月22日, 長野県松本文化会館) [単独] 2) 平成27年度第1回日本生理心理学会編集委員会定例会議 (5月22日, 大阪グランフロント) [単独] 3) 独立行政法人自動車事故対策機構長野支部平成27年度運行管理者等基礎講習講師「運転者の心理『自動車運転者の適性管理について—安全運転のために—』」(7月9日, 長野県松本文化会館) [単独] 4) 平成27年度第2回日本生理心理学会編集委員会定例会議 (9月22日, 名古屋国際会議場) [単独]

高瀬弘樹

- ② 1) 「呼吸と体肢運動間の協調：換気運動、胸部と腹部呼吸運動のダイナミクスの違い」(信州大学人文科学論集, 2, 119-130.) [単著]

- ⑦ 1) 日本学術振興会科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「身体的相互刺激によるリラクゼーション効果の生起機序の解明」(課題番号: 15K13138) 研究代表者

岡本卓也

- ② 1) 「写真・ナラティブ誘出法 (PEN-A: Photo Eliciting Narrative Approach) による中高年の地域コミュニティへの意識と地域における活動の把握—京都市中京区西ノ京・壬生地域における調査—」(『追手門経営論集』20(2), 1-43, 2015年10月) [共同] 2) 「多方向的評価法による地域資源の開発: ウチとソトからみた沖縄の魅力」(『関西学院大学社会学部紀要』120, 103-113, 2015年3月) [共同] 3) 「登山行動に関する社会心理学的研究: 登山動機の構造とその変遷」(『関西学院大学社会学部紀要』120, 167-180, 2015年3月) [共同] 4) 「安曇野市協働のまちづくり職員研修会の実施報告」(『地域ブランド研究』10, 29-38, 2015年3月) [共同] 5) 「観光動機の違いによる情報の収集と発信」(『地域ブランド研究』10, 29-38, 2015年10月) [共同] 6) 「小水力発電で地域のエネルギー源を活用する」(『産官学連携ジャーナル』11(9), 12-15, 2015年9月) [共同]
- ⑥ 1) 「マラソンボランティアへの参加が地域活動への意識に及ぼす影響について(1)」(『日本コミュニティ心理学会第18回大会発表論文集』, 74-75, 法政大学, 2015年6月) [共同] 2) 「マラソンボランティアへの参加が地域活動への意識に及ぼす影響について(2)」(『日本コミュニティ心理学会第18回大会発表論文集』, 76-77, 法政大学, 2015年6月) [共同] 3) 「Awareness of water rights and of the need for groundwater protection」(『The 14th European Congress of Psychology』, University of Milan-Bicocca, 2015年7月) [単独] 4) 「Community values in the Tokyo metropolitan area.」(『The 14th European Congress of Psychology』, University of Milano-Bicocca, 2015年7月) [共同] 5) 「被受容感が本来感, 自尊心, 自己価値の随伴性に与える影響」(『日本パーソナリティ心理学会第24回大会発表論文集』, 20, 北海道教育大学, 2015年8月) [共同] 6) 「友人関係への動機づけと仲間集団内の類似性が仲間集団への適応に及ぼす影響」(『日本心理学会第79回大会』, 名古屋国際会議場, 2015年9月) [共同] 7) 「世代による登山行動の意味付けの違い」(『日本心理学会第79回大会』, 名古屋国際会議場, 2015年9月) [単独] 8) 「SNS ストレス尺度の作成と精神的健康への影響の検討」(『日本グループ・ダイナミックス学会第62回大会発表論文集』, 144-145, 奈良大学, 2015年9月) [共同] 9) 「本来感と Well-being の関連 文化的自己感に着目して」(『日本社会心理学会第56回大会発表論文集』, 278, 東京女子大学, 2015年10月) [共同] 10) 「首都圏における地域コミュニティの現状の統合的な理解に向けて(1)—コミュニティカルテ作成の試み—」(『日本社会心理学会第56回大会発表論文集』, 424, 東京女子大学, 2015年10月) [共同] 11) 「首都圏における地域コミュニティの現状の統合的な理解に向けて(2)—環境配慮行動に注目して—」(『日本社会心理学会第56回大会発表論文集』, 425, 東京女子大学, 2015年10月) [共同] 12) 「首都圏における地域コミュニティの現状の統合的な理解に向けて(3)—地域との繋がりを感ずるとき—」(『日本社会心理学会第56回大会発表論文集』, 426, 東京女子大学, 2015年10月) [共同] 13) 「首都圏における地域コミュニティの現状の統合的な理解に向けて(4)—一定注意図に与える影響—」(『日本社会心理学会第56回大会発表論文集』, 427, 東京女子大学, 2015年10月) [共同]

⑦ [シンポジウム] 1) 「集団への愛着, 所属意識をどのように捉えるのか」(『第11回群馬大学社会心理学研究小集会』, 群馬大学, 2015年3月) [単独] [報告書] 1) 「集団への愛着, 所属意識をどのように捉えるのか」(『平成26年度 群馬大学社会心理学セミナー報告書』, pp.17-35, 2015年3月) [単独] 2) 「行政と住民の協働を進めるための要因に関する研究報告書」(『平成26年度安曇野市受託研究報告書』, p.84, 2015年3月) [共同] 3) 「安曇野観光における情報資源に関する実態調査」(『平成26年度安曇野市受託研究報告書』, p.126, 2015年3月) [共同] 4) 「行政組織の水資源マネジメント活動と職員の意識に関する調査」(『イノベーション政策に資する公共財としての水資源保全とエネルギーに関する研究 社会科学グループ 調査報告書』, p.76, 2015年12月) [共同] 5) 「首都圏における地域コミュニティ意識を測定する尺度の開発に関する共同研究」(『東京ガス株式会社 都市生活研究所』, p.106, 2015年3月) [共同] [外部資金の取得] 1) 「[場所]の魅力の解明—場所経験が人生移行に与える影響」(科学研究費補助金(基盤研究(C)):研究代表) 2) 「オンラインコミュニティにおける SNS ストレスの低減と主観的幸福感の向上」(平成25年度 電気通信普及財団研究助成) 3) 「観光者属性の違いによる安曇野観光の調査」(平成26年度 安曇野市受託研究) [学会運営に関わる業務] 日本コミュニティ心理学会研究委員会委員

清水健司

- ① 1) 『現代社会と応用心理学3 クローズアップ「健康」』玉井寛・内藤哲雄(編)福村出版(トピック9「介護施設の利用」pp.97-105を分担執筆)[共著] 2) 『現代社会と応用心理学3 クローズアップ「健康」』玉井寛・内藤哲雄(編)福村出版(トピック10「長寿を支える条件」pp.106-115を分担執筆)[共著] 3) 『現代社会と応用心理学6 クローズアップ「高齢社会」』内藤哲雄・玉井寛(編)福村出版(トピック18「引退者・隠遁者」イメージから「第二の人生」観へ」pp.179-187を分担執筆)[共著]
- ② 1) 「The influence of perfectionism and thought suppression on negative rumination」*Psychology Research*, 5, pp.292-299. [共著] 2) 「孤独感および孤独に対する捉え方が友人関係に及ぼす影響」*信州大学人文科学論集*, 2, pp.107-118. [共著]
- ⑥ 1) 「森田神経質者が不適応的な自己注目から脱却するためには？」(日本心理臨床学会第34回秋季大会, p.330 神戸国際会議場 9月) [共同] 2) 「完全主義者にとって有効な認知的対処とは何か」(日本心理学会第79回大会 p.17 名古屋国際会議場 9月) [共同] 3) 「自尊心と安心さがしが社会的拒絶への対処行動に及ぼす影響」(日本心理学会第79回大会 p.174 名古屋国際会議場 9月) [共同] 4) 「幼児の抑制制御と社会性の関連—感情理解の媒介的役割—」(日本心理学会第79回大会 p.1045 名古屋国際会議場 9月) [共同]
- ⑦ 1) 日本パーソナリティ心理学会「パーソナリティ研究」編集委員 平成27年度

長谷川孝治

- ① 1) 『クローズアップ「健康」(現代社会と応用心理学3)』玉井寛・内藤哲雄(編)福村出版(トピック17「草食系と肉食系」Pp.174-185.を分担執筆)[共著]

⑥ 1) 社会的拒絶場面における反応の質的分析——低自尊心者と高自尊心者の安心さがしの差異——(日本社会心理学会第56回大会 東京女子大学 10月31日) [単独] 2) 自尊心と安心さがしが社会的動機づけに及ぼす影響(日本グループ・ダイナミックス学会第62回大会 奈良大学 10月11日) [共同:長谷川孝治・相馬敏彦・木村昌紀・清水健司] 3) 自尊心と安心さがしが社会的拒絶への対処行動に及ぼす影響(日本心理学会第79回大会 名古屋国際会議場 9月22日) [共同:長谷川孝治・相馬敏彦・木村昌紀・清水健司] 4) 本来感とWell-beingの関連——文化的自己観に着目して——(日本社会心理学会第56回大会 東京女子大学 11月1日) [共同:関森真澄・岡本卓也・長谷川孝治] 5) 文化的自己観の違いによる本来感の基準の相違——被受容感が本来感・自尊心・自己価値の随伴性に与える影響に着目して——(日本パーソナリティ心理学会第24回大会 北海道教育大学 8月21日) [共同:関森真澄・岡本卓也・長谷川孝治] ⑦ 1) 日本社会心理学会理事 2015年4月~2018年3月

黒田祐我

① 『Life and Religion in the Middle Ages』(F. Sabaté ed., Cambridge Scholars Publishing, 総395頁) [共著]

② 「異教徒との交易の実態—カスティールヤ=グラナダ「境域」をめぐる—」(『スペイン史研究』第28号, pp.48-63) [単著]

⑥ 1) 「中世イベリア半島における改宗動向—「境域」を渡り歩く改宗者たち—」(第16回拡大地中海史研究会, 学習院大学, 3月29日) [単独] 2) 「文化と信仰の狭間で活動する仲介者—中世イベリア半島を事例として—」(2015年度信大史学会, あがたの森文化会館, 11月28日) [単独]

⑦ 1) 「中世スペインとイスラーム文化」(朝日カルチャーセンター横浜教室講座担当, 2月7日) [単独] 2) 「セビーリヤの都市と文化—重層的にかさなる諸文明の痕跡を追う—」(朝日カルチャーセンター湘南教室講座担当, 7月11日) [単独] 3) 「「フロンティア」からみたヨーロッパとイスラーム—中世スペイン史研究者の視点から—」(信州大学人文学部第69回タベのセミナー担当, 7月14日) [単独] 4) ヘレス・デ・ラ・フロンテラ市立古文書館調査(科学研究費補助金(若手B)「ナスル朝社会復元を目的とするカスティールヤ=グラナダ「境域」の未刊行史料調査」による調査実施, 9月2日~9月18日)

久保亨

① 1) 安藤正人・久保亨・吉田裕共編『歴史学が問う 公文書の管理と情報公開:特定秘密保護法下の課題』大月書店, 2015年5月, 1-273頁。 2) 水島司・加藤博・久保亨・島田竜登編『アジア経済史研究入門』名古屋大学出版会, 2015年10月, 1-377頁。

② 1) 「1930年代の中国と日中経済関係——国歌になる歌が生まれた時代——」『経済史研究』(大阪経済大学)第18号, 2015年1月, 37-61頁 2) 「外国経営史:中国」, 『経営史学の50年』日本経済評論社, 2015年3月, 361-367頁。 3) 「仁礼敬之の『北清見聞録』と黎明期のアジア主義」東洋文庫編『アジア学の宝庫, 東洋文庫:東洋学の史料と研究』勉誠出版, 2015年3月, 269-283頁。 4) 「高校歴史教育の見直しと『歴史基礎』案」『歴史評論』

- 第781号, 2015年5月, 44-53頁。 5) 「小谷汪之『マルクスとアジア——アジア的生産様式論争批判』」(史籍紹介) 歴史学研究会『歴史学と、出会う』青木書店, 2015年5月, 228-233頁。 6) 「二十世紀中国経済の国際環境——以第二次世界大戦後棉紡業の発展為例——」中国社会科学院近代史研究所編『第三届近代中国与世界国際学術研討会論文集』第四卷 経済・社会・学術, 社会科学文献出版社, 2015年5月, 1988-2010頁
- ⑥ 1) 「近代中国における機械工業の発展—19世紀半ばから20世紀半ばを中心に」科研費交付グローバル・ヒストリー研究会, 2015年10月3日, 新潟県民会館 2) 「1940-50年代的中国経済与日中関係」〔単独〕, 「中日戦争衝撃下の亞洲」国際シンポジウム, 2015年12月19日, 中央研究院近代史研究所(台北) 3) 「日本における中華民国史研究」第三回中華民国史高峰論壇(サミット・フォーラム), 2015年12月26日, 中国社会科学院近代史研究所(北京)
- ⑦ 1) 「『慰安婦』問題で日米の歴史家が連帯 メディアも偏った歴史観を正す報道を」『Journalism』朝日新聞社, 通巻305号 2015年5月30-37頁

豊岡康史

- ② 「嘉慶維新(一七九九年)再検討」(『信大史学』第40号, pp.1-26, 60)
- ⑤ 1) 「回顧と展望: 中国明清」(『史学雑誌』第124号第5巻, pp.223-230) [単著] 2) 「書評: 新村容子『アヘン戦争の起源: 黄爵滋と彼のネットワーク』」(『歴史学研究』934号, pp.55-58) [単著]
- ⑥ [単独] 「清朝中期の経済変動と財政支出」(社会経済史学会第84回全国大会, 2015年5月31日, 早稲田大学早稲田キャンパス)
- ⑦ 科学研究費助成事業(若手研究B) 「清朝中期の対外関係: 「カントンシステム」再検討(1784-1833)」を研究代表者として実施。

笹本正治

- ② 1) [単著] 「石井鶴三の作品および関連資料—美術教育と作品—」(5月20日, 『図書館雑誌』vol.109 No.5 310~311頁, 公益社団法人日本図書館協会) 2) [単著] 「Overview of Japanese Mountain Culture Studies」(9月, 『Journal of Mountains and Humanities』volume 1 19~92頁, INSTITUTE OF MT.JIRISAN REGION CULTURAL STUDEIES, SUNCHON NATIONAL UNIVERSITY, KOREA) 3) [単著] 「日本の山村環境と景観—飯山市小菅を例にして—」(11月11日, 『The 4th International Conference of East Asian Association Of Mountainous Culture The Mountainous Culture, Ecology and Personage in East Asia』61~94頁, INSTITUTE OF MT.JIRISAN REGION CULTURAL STUDEIES, SUNCHON NATIONAL UNIVERSITY, KOREA)
- ⑤ 1) [単著] 「中央図書館リニューアルオープン」(10月, 信州大学人文学部同窓会『会報』第60号1~2頁)
- ⑥ 1) [単独・国際] 「日本の防災と歴史学・民俗学」(2015年8月7日, Special Lecture 「Natural Disasters Management in Humanities & Social Sciences」タイチュラロンコン大学情報アート学部情報学科) 2) [単独・国際] 「富士山—信仰と芸術の源泉—」(2015年8月8日, タイチェンマイ大学人文学部日本文化研究センター・日本研究公開講演) 3) [単独・国

際)「日本の山村環境と景観—飯山市小菅を例にして—」(2015年11月11日, 第4回東アジア山岳文化研究会・韓国順天大学) 4) [単独]「諏訪信仰と山の神—日本の山岳信仰と水・風—」(9月24日, 日本機械学会 設計工学・システム部門講演会・工学部講義棟 200番教室)

⑦ 1) [単独]「小菅の里 小菅山 重要文化的景観選定について」(4月25日, 飯水地区氏子総代会・飯山駅前 びっくわんホール) 2) [単独]「宗教の心を活かしたまちづくり—飯山市を中心として—」, 及びシンポジウム「寺町を活かしたまちづくり」コーディネーター(5月7日, 寺町サミット in 飯山・西敬寺) 3) [単独]「飯山市小菅の柱松神事」(5月19日, ニューゼaland 教育フェア2005 in 信州・あがたの森文化会館) 4) [単独]「松本平の山城と戦乱」(5月24日, 松本史談会・松本市立博物館) 5) [単独]「真田氏三代」(6月6日, 菁菁塾・八十二文化財団) 6) シンポジウム参加 防災市民シンポジウム「必ずやってくる大震災に備えて」(6月28日, 国際科学イノベーションセンター・信州大学, 県経営者協会の主催) 7) [単独]「道と川, そして橋が繋ぐ文化」(7月18日, きぼう(安曇野市)・NPO 法人川の自然と文化研究所) 8) [単独]「成人になる君たちへ—飯山人の誇りを胸に—」(8月15日, 飯山市民会館・飯山市成人式・飯山市・飯山市教育委員会・飯山市選挙管理委員会) 9) [単独]「笹本正治, 諏訪信仰を熱く語る」(8月29日, 放送大学長野学習センター・放送大学長野学習センター講義室) 10) [単独] 学長・COC 連携自治体首長シンポジウム コーディネーター(2015年9月11日, 信州大学地域戦略センター・工学部キャンパス国際科学イノベーションセンター) 11) [単独]「安曇野の戦国時代—山城を中心にして—」(9月29日, 安曇野市・信州大学人文学部・安曇野市穂高会館) 12) [単独]「地域の文化資源を今と未来に活かす—大学と地域—」(10月6日, 県立長野図書館・県立長野図書館) 13) [単独]「川中島合戦に一騎打ちはなかった」(10月8日, 丸水長野県水・軽井沢プリンスホテルウェスト) 14) [単独]「戦国時代を生き抜いた真田一族」(10月12日, 真田家ゆかりの地交流会 in 松代・信州松代ロイヤルホテル) 15) [単独]「善光寺七清水」(10月28日, 長野市上下水道局100周年記念式典・メトロポリタン長野) 16) [単独]「地域の知の拠点としての大学—信州大学の場合—」(10月31日, COC「九州・沖縄シンポジウム IN 佐賀2015」・佐賀大学本庄キャンパス教養教育大講義室) 17) [単独] シンポジウム「信濃村上氏フォーラムから10年」コーディネーター(11月8日, 坂城町・坂城町文化会館) 18) [単独]「木曾の足下を見直す」(11月15日, 木曾郡公民館運営協議会・上松町公民館) 19) [単独] 妙高戸隠連山国立公園指定記念シンポジウム「妙高戸隠連山国立公園の可能性」コーディネーター(11月20日, 妙高市・長野自然環境事務所・妙高市文化ホール) 20) [単独]「戦国を生き抜いた真田氏三代」(11月27日, 上田市戦国歴史ガイド養成講座・上田市サントミュージゼ) 21) [単独]「真田氏の城館跡と館を訪ねて」案内講師(12月1日, 桐原城址愛護会・入山辺公民館, 上田市内) 22) [対談]「信玄の実像」井沢元彦氏と(12月13日, 甲府市, エンジン2・甲府市総合市民会館イベントホール) 23) [単独]「地域教育と人材育成」(2016年1月21日, 長野県校長会・ホテル信濃路) 24) [単独]「諏訪信仰と自然—日本の山岳信仰と水・風—」(2016年2月13日, サロンあがたの森・あがたの森文化会館) 25) [単独] 信州大学・CATV 連携フォーラム「我がふるさとの御柱」司会(2016年2月14日, 生島足島神社) 26) [単独]「地域と大学の連携—信州大学を例とし

てー」(2016年3月9日, 国土フォーラム2016 in 上越・上越市)

山本英二

- ① 1) 鈴木俊幸・山本英二編『信州松本藩崇教館と多湖文庫』新典社, 318頁 [編著] 2) 「なぜ偽文書は作られたのか—武田信玄, 徳川家康の偽文書—」(国立歴史民俗博物館編『大ニセモノ博覧会—贋作と模倣の文化史—』, pp.50-59) [共著] 3) 「地域の歴史叙述—寺院・温泉・縁起—」(島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『シリーズ日本人と宗教 近世から近代へ5 書物・メディアと社会』春秋社, pp.149-174) [共著] 4) 「領内出版物—治世と書籍—」(鈴木俊幸編『シリーズ〈本の文化史〉2 書籍の宇宙—広がりと体系—』平凡社, pp.197-230) [共著]
- ② 1) 「教科書から消える慶安御触書」(『中日新聞(夕刊)』2015年9月18日, 第26199号, 第11面) [単独]
- ④ 1) 国立歴史民俗博物館企画展示「大ニセモノ博覧会—贋作と模倣の文化史—第Ⅱ章フェイク—偽文書・偽造の世界—」, 2015年3月10日～5月6日, [分担]
- ⑦ 1) 講座「江戸時代の謎と不思議」(名古屋市・栄中日文化センター, 4月17日, 5月15日, 6月19日, 7月17日, 8月22日, 9月18日, 10月16日, 11月20日, 12月18日 [単独] 2) 愛知大学文学部春学期非常勤講師「日本史学講読」 3) 徳川林政史研究所特任研究員 4) 関東近世史研究会評議員

大串潤児

- ② 大串潤児 [単著]「若月俊一 地域医療にかけられたもの」吉見俊哉ほか編『ひとびとの精神史』第1巻「敗戦と占領 1940年代」, 岩波書店, 2015年7月, 257～282頁。
- ⑥ 1) 大串潤児 [単独]「戦後70年における歴史教育の課題と現代「歴史修正主義」」, 長野県歴史教育者協議会中間研究集会・記念講演, 2015年5月9日, 於・松本市勤労福祉センター。 2) 大串潤児 [単独]「「戦後」の転換点の意味 現代史研究からの提起」, 安全保障関連法案の撤回を求める信州大学人の会・第1回シンポジウム「新安法制のなかが問題か」, 2015年7月30日, 於・信州大学。 3) 大串潤児 [単独]「民衆は, どのようにして兵士になるのか?」, 神奈川県立柏陽高校日本史サマーセミナー, 2015年8月19日, 於・柏陽高校。 4) 大串潤児 [単独]「地域のなかの「戦争責任」問題」全4コマ講義, 第75回・飯田アカデミア, 2015年8月29～30日, 於・飯田市歴史研究所。 5) 大串潤児 [単独]「「戦後70年」の歴史意識と同時代史研究」, 同時代史学会大会「戦後史の問い方を問い直す 安全保障と歴史認識」報告, 2015年12月5日, 於・大妻女子大学。
- ⑦ 1) 大串潤児 [単著]「現場からの「歴史」学力論は可能か? 歴史科学協議会第48回大会「現代日本の「危機」と地域社会」の問い」『歴史評論』782, 2015年6月, 96～99頁。 2) 時事通信配信連載記事「紙芝居が描いた戦争」分担(7)「銃後」(8月19日), (9)「母」(9月2日), 『高知新聞』などに掲載。 3) シンポジウム実行委員会委員長・総括発言, 第6回満蒙開拓青少年義勇軍シンポジウム・上田小県地域集会, 2015年10月10日, 於・上田市中央公民館。 4) 基調報告「「教員の自由」の危機」, 長野県教育研究集会第19分科会「平和・人権と国際連帯の教育」(共同研究者), 2015年11月7～8日。

佐藤全敏

- 〈平成26年〉②1)「信濃国伊賀良莊光明寺と二つの経筒(下)」(『信濃』66-2, 31-44頁, 2月) [単著] 2)「観心寺如意輪観音像 再考」(『美術研究』413, 1-18頁, 10月) [単著]
- ⑦1)「光明寺阿弥陀如来像調査の経緯」(飯田市光明寺調査報告会, 6月1日, 同寺庫裏) [単独] 2)「古代末期の光明寺と伊賀良莊」(同前) [単独] 3)「歴史と美術の間3—信濃国のある莊園と仏像」(社団法人金鶏会公開講座「古典を読む」, 7月26日, 長野高校金鶏会館) [単独] 4)同志社大学文学部 集中講義(8月19-22日, 同志社大学) 5)科学研究費助成事業基盤(C)「『国風文化』期における海外文化受容構造の研究」(研究代表者, 継続)
- 〈平成27年〉①『日記・古記録の世界』(倉本一宏編, 思文閣出版, 771頁, 担当227-269頁, 3月) [共著]
- ②「蔵人所の成立と展開—家産官僚制の拡張と日本古代国家の変容—」(『歴史学研究』937, 38-49頁, 10月)
- ⑥1)「蔵人所の成立」(歴史学研究会日本古代史部会2月例会, 2月21日, 明治大学) [単独] 2)「9世紀における殿上儀式行事」(歴史学研究会日本古代史部会3月例会, 3月14日, 明治大学) [単独] 3)「10・11世紀の在地社会を考える」シンポジウム 司会・コメント(日本史研究会古代史部会3月例会, 3月29日, 池坊短期大学) [単独] 4)「蔵人所の展開」(歴史学研究会日本古代史部会4月例会, 4月25日, 明治大学) [単独] 5)「蔵人所の成立と展開—家産官僚制の拡張と日本古代国家の変容—」(歴史学研究会日本古代史部会5月例会, 5月14日, 明治大学) [単独] 6)「蔵人所の成立と展開—家産官僚制の拡張と日本古代国家の変容—」(2015年度歴史学研究会大会報告, 5月24日, 慶應義塾大学) [単独]
- ⑦1)NHKスペシャル「京都御所～秘められた千年の美～」考証・出演(NHK, 1月1日) [単独] 2)NHK BSプレミアム「京都御所～秘められた千年の美～」考証・出演(NHK, 3月7日) [単独] 3)科学研究費助成事業基盤(C)「『国風文化』期における海外文化受容構造の研究」(研究代表者, 継続)

野津寛

- ②1) *L'Odysée et les Métamorphoses d'Apulée*, 『信州大学人文科学論集』第2号, p.177-187, 2015年3月 [単著]。 2)「日本における西洋古典語教育の始まり: 田中秀央を中心に」, 『西洋古典のすすめ(成城大学文芸学部ヨーロッパ文学科発行: シリーズ・ヨーロッパの文化 2)』, p.131-145, 2015年7月 [単著]。
- ⑤「アリストパネスの喜劇について」, 『劇場文化(王国, 空を飛ぶ!～アリストパネスの『鳥』～)』, SPAC 静岡舞台芸術センター, 2015年10月 [単独]。
- ⑥1) “Traductions japonaises d'Homère,” 2015年8月25日, Edinburgh Law and Classics Conference, Department of Classics, University of Edinburgh [単独]。 2)「アリストパネス『鳥』における韻律のシンメトリーと数理的構造について」, 学習院大学大学院人文科学研究科身体表象文化学専攻主催講演会, 10月29日 [単独]。
- ⑦1) 日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として講演会を主催, アテネフランセ, 2015年3月7日。 2) 日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として講演会を主催, アテネフランセ,

2015年10月31日。

渋谷豊

- ①松崎碩子・和田桂子・和田博文編『両大戦間の日仏文化交流』ゆまに書房, 2015年3月 (『ルヴェ・フランコ・ニッポンヌ』とルネ・モーブラン」 p.91-109 [単著])
- ③サン＝テグジュペリ『人間の大地』光文社古典新訳文庫 [単著]
- ⑤書評「本から本を作る作家たち (池澤夏樹編『日本文学全集17堀辰雄／福永武彦／中村真一郎])」『ふらんす』2015年7月号 p.72 [単著]
- ⑦1)「Readers Club Reading Session」第9回 (紀伊國屋書店 Kinoppy 及び光文社古典新訳文庫共催) 講師, 2015年8月21日 (於紀伊國屋新宿本店) 2)「公開研究会・フランス現代文学における第二次大戦の記憶」(科学研究助成事業基盤研究C「子供から眺めた第二次大戦期フランスのユダヤ人迫害の検討」及び基盤研究B「現代フランス小説——第二次大戦および戦後の記憶の再編成の視座から」研究グループ共催) ディスカッサント, 2015年11月28日 (於東京工業大学大岡山キャンパス)

伊藤加奈子

- ②「時間詞“当時”についてのノート」, 『信州大学人文科学論集』2号 pp.131-143 平成27年3月25日 [単独]

氏岡真士

- ②1)「《水滸》与陳枚」, 『信州大学人文科学論集』第2号, 145-163 [単著] 2)「艾氏珍藏插増甲本《水滸》殘本新探」, 『明清小説研究』2015年第3期, 53-67 [単著]

株丹洋一

- ⑦1)平成26年度信州大学出前講座「童話『眠れる森の美女』のルーツをたどって」(2015年2月22日, 中野市立図書館) [単独] 2)平成26年度グローバル人材育成事業「持続可能な社会を実現する活動拠点の構築をめざして—環境教育海外研修: オーストリア・ドイツ—」(『信州大学環境報告書2015』, 国立大学法人信州大学環境マインド推進センター, pp.35-36) [共同] 3)平成27年度信州大学教員免許状更新講習「グリム童話のルーツを探る」(2015年8月10日, 信州大学人文学部) [単独] 4)平成27年度市民大学講座「グリム童話のルーツをたどって～『眠れる森の美女』を中心に～」(2015年10月23日, 安曇野市穂高公民館) [単独] 5)平成27～29年度日本学術振興会科学研究費助成事業(基盤研究C)「国連RCE(持続可能な発展教育の地域拠点)活性化の研究」(課題番号15K00971)を研究代表者として実施 [単独]

磯部美穂

- ①1) Perspektivenwechsel und thematischer Anschluss als textuelle Leistung des Kompositums. (In: *Shinshu Studies in Humanities*, No.2, 189-196) [単著] 2) Ein Schritt zum wissenschaftlichen Schreiben auf Deutsch. Eine Fallstudie: Verfassen eines Leserbriefs. (In: *NU*

Ideas Vol. 4.2.2015, 93-100) [単著]

⑥ 1) *Ein Schritt zum wissenschaftlichen Schreiben auf Deutsch. Eine Fallstudie: Verfassen eines Leserbriefs.* (2nd. International Symposium on Academic Writing and Critical Thinking, 名古屋大学, 2015年2月15日) [単独] 2) *Strategies for writing Leserbrief.* (14th International Pragmatics Conference, アントワープ大学, 2015年7月30日) [単独] 3) *Verbesserung der akademischen Schreibkompetenz.* (XIII. Kongress der Internationalen Vereinigung für Germanistik. 同齊大学, 2015年8月29日) [単独]

吉田正明

② 「19世紀パリにおけるキャバレーと新聞」(『シャンソン・フランセーズ研究』第7号, pp.63-80, 2015年12月) [単著]

⑥ 1) 学会ワークショップ報告:「シャンソンにおける反戦・平和主義—歌を通して見たヒロシマのイマージュ」, *Cahier 15*, pp.6-7, mars 2015, 日本フランス語フランス文学会, 2) 学会司会者報告:「テオドール・ド・バンヴィル <L'Ombre d'Eric> はなぜヒットしたか—19世紀詩とシャンソンの関連についての一考察 (慶應義塾大学非常勤講師, 五味田泰氏発表)」, 学会ニュース第150号, p.4, 2015年7月25日発行, 日本フランス語フランス文学会

⑦ 1) 学会司会: 日本フランス語フランス文学会2015年度春季大会 (2015年5月30日, 於明治学院大学) 2) シャンソン研究会代表としてシャンソン研究会主催:「第25回シャンソン研究会」(2015年6月6日, 於追手門学院大学梅田サテライト), 「第26回シャンソン研究会」(2015年11月28日, 於信州大学人文学部) 3) 第2回東京シャンソンコンクール審査員 (2015年5月6日, 於杉並公会堂) 4) 県民共学講座実施:「星の王子さまと日本詩」(2015年6月26日, 於長野県林業大学校) 5) 長野ワイン講演会 (2015年6月26日, 於シャンソン教室ペルル) 6) トーク会パネリスト:「オペラの前から騒ぎ」, 信州大学人文学部×セイジ・オザワ松本フェスティバル協同企画 (2015年7月7日, 於まつもと市民芸術館小ホール) 7) シャンソントークとゲスト出演:「信州パリ祭2015」(2015年7月20日, 於上田創造館) 8) フランスワイン講演会 (2015年9月12日, 於上田ラ・メール) 9) 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金) (基盤C) (平成25年度～平成27年度) による研究課題「文芸キャバレーにおける文学とシャンソンの影響関係」(課題番号25370346) を研究代表者として実施

鎌田隆行

① 真野倫平編『近代科学と芸術創造——19世紀～20世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係』(第15章, 第16章を執筆), 行路社, 2015 [共著]。

② 「食卓の登場人物たち——『セザール・ピロトー』の新居祝いの場面の生成」, 信州大学『人文科学論集』第2号, 2015, pp.165-175[単著]。

⑥ «La genèse des personnages reparaisants», Séminaire du GIRB (国際バルザック研究会セミナー), 2015年12月12日, パリ・デイドロ大学 [単独・国際]。

⑦ 1) パリ・デイドロ大学客員研究員 (2015年10月～2016年3月) 2) Groupe International de Recherches Balzacziennes (国際バルザック研究会) 執行部メンバー (2008年3

月～) 3) 日本フランス語フランス文学会 学会誌編集委員 (2011年4月～2015年4月)
 4) 日本フランス語フランス文学会 中部支部幹事 (2014年4月～) 5) シャンソン研究会 参与 (2011年10月～) 6) 科学研究費補助金 (基盤研究C) 「ロヴァンジュール文庫所蔵のバルザック『人間喜劇』生成資料の悉皆調査と目録の作成」(2015年～2017年度, 研究課題番号 15K02377) 研究代表者。

伊藤 盡

- ② 1) 伊藤 盡「カンブリアのサガ：ラスキンの秘書 画家W・G・コリングウッドの小説『ラスキン文庫たより』第69号 (2015年3月), 4-7。(査読有) 2) Tsukusu Jinn Itó “‘Ásgeir’, a Japamanese Imagined Lady of the North: A Manga Narrative and Its Space’. *The Sixteenth International Saga Conference, Saga and Space, 9th-15th August 2015 University of Zurich & University of Basel, Switzerland, Preprints of Abstracts*. Ed. Jürg Glauser, et al. (Zurich: Schweizerische Gesellschaft für Skandinavische Studien, 2015), 145-46。(査読有)
- ③ 1) 翻訳監修 トム・シッピー著 沼田香穂里訳 伊藤 盡監修『J・R・R・トールキン 一世紀の作家』(評論社, 2015年1月) 2) 字幕・日本語吹替台本監修 辺見葉子, 伊藤 盡, 高橋勇『ホビット：決戦のゆくえ』(ワーナー・ブラザーズ・ホームエンターテインメント, 松竹, 2015年4月)(Blue-ray, DVD) 3) 字幕・日本語吹替台本監修 辺見葉子, 伊藤 盡, 高橋勇『ホビット：決戦のゆくえ エクステンデッド・エディション』(ワーナー・ブラザーズ・ホームエンターテインメント, 松竹, 2015年11月)(Blue-ray, DVD)
- ⑤ インタビュー記事, 聞き手・文 森瀬繚「Interview エルフ語翻訳監修」『別冊映画秘宝 ロード・オブ・ザ・リング&ホビット 中つ国サーガ読本』(洋泉社 MOOK, 2015年4月) pp.122-29。
- ⑥ 1) [単独・国内] 伊藤 盡「W. G. Collingwood の『カンブリアのサガ』と古北欧語借入」日本アイスランド学会2015年度総会 公開講演会。佐野書院, 一橋大学 (2015年6月6日) 2) [単独・国際] “‘Ásgeir’, a Japamanese Imagined Lady of the North: A Manga Narrative and Its Space’. *The Sixteenth International Saga Conference, Saga and Space, 9th-15th August 2015 University of Zurich & University of Basel*. (Universität Zürich, Zurich, Switzerland; 2015年8月10日)(査読有) 3) [単独・国際] Tsukusu Itó, ‘The Shaping of Middle-Mouth: Elvish Writings as Devices in Phonetics’. Omentielva Enquea. *The Greisinger Museum, Jenins, Switzerland* (2015年8月7日)(査読有)
- ⑦ 1) 講演「赤ちゃんからはじめる楽しいABC」(松本市梓川図書館, 2015年3月25日) 2) 学会運営 日本中世英語英文学会評議員, 日本中世英語英文学会 *Studies in Medieval English Literature and Language* 編集委員長

花崎美紀

- ① 1) 「英文法で学ぶ英会話 英文法の知識を活用して会話力をつけよう」グイーツソリューション, 105ページ【共著】
- ② 1) “A Pragmatic Strategy for Building Accordance in Discordant Situations: A Case Study on Negative Questions” in *HUIC International Conference on Arts, Humanities, Social*

Sciences&Education Proceedings pp.1-25 【共著】 2) “Multidirectional Approach to the Semantics of *Have*: Seeking a Unified Way of Teaching Its Polysemy to the EFL Students” in *HUIC International Conference Arts, Humanities, Social Sciences&Education Proceedings* Available online 【共著】 3) 「Atの意味論」『英文学研究』Vol 8, 127-135。【共著】 4) 「英語教育に活用するモジュール型教材の可能性：一英文法の学習を中心にして一」『JeLA 日本 e-Learning 学会学会誌』Vol 15, 95-104 【共著】 5) 「高等学校に於けるモジュール型言語教材の可能性：使役動詞を中心にした教授法」『JeLA 日本 e-Learning 学会学会誌』Vol 15 70-77 【共著】 6) “A Study on Negative Questions as a Pragmatic Strategy for Overcoming “Discordance” Proceedings for 14th International Pragmatic Association (IPRA) 【共著】 7) “A Study on Negative Questions” Proceedings for 5th International Cognitive Linguistics Conference 【共著】 8) “The Effectiveness of Using Modular-style Teaching Materials in Teaching English Prepositions to Japanese College Students” Proceedings for International Conference on Language Learning and Teaching (ICoLLT) 【共著】 9) “Strategies for Conveying Requests in Discourse: In Relation to the Japanese and American Identities” *Proceedings for 5th Discourse and Society International Conference (UMDS)* [単著] 10) 「認知言語学の知見を活用した使役動詞 *have* の分析：よりよい英語教育を目指して一」『言語センター紀要言語教育センター実践報告』第4号, 46-57 【共著】 11) “Teaching Prepositions to Japanese EFL College Students: Bridging Theory and Practice” *International Journal of Language Education and Applied Linguistics (IJLEAL)*, Vol3, 1-10 【共著】

⑥ 1) “A Pragmatic Strategy for Building Accordance in Discordant Situations: A Case Study on Negative Questions” *HUIC International Conference on Arts, Humanities, Social Sciences&Education, Honolulu, USA, 2015年1月3日* 【協同, 国際】 2) “Multidirectional Approach to the Semantics of *Have*: Seeking a Unified Way of Teaching Its Polysemy to the EFL Students” in *HUIC International Conference on Arts, Humanities, Social Sciences&Education, Honolulu, USA, 2015年1月4日* 【協同, 国際】 3) “A Study on Negative Questions” *International Conference on Cognitive Linguistics, New Castle, England 2015年7月23日* 【協同, 国際】 4) “A Study on Negative Questions as a Pragmatic Strategy for Overcoming “Discordance” *International Pragmatics Association, Antwerp, Belgium 2015年7月31日* 【協同, 国際】 5) “The Effectiveness of Using Modular-style Teaching Materials in Teaching English Prepositions to Japanese College Students” *International Conference on Language Learning and Teaching, Kuantan, Malaysia 2015年10月3日* 【協同, 国際】 6) 「高等学校に於けるモジュール型言語教材の可能性：使役動詞を中心にした教授法」, 日本 e-Learning 学会第18回学術講演会, 2015年10月23日 【協同, 国内】 7) 「英語教育に活用するモジュール型教材の可能性：一英文法の学習を中心にして一」, 日本 e-Learning 学会第18回学術講演会, 2015年10月24日 【協同, 国内】 8) “Strategies for Conveying Requests in Discourse: In Relation to the Japanese and American Identities” *Discourse and Society International Conference, Kuala Lumpur, Malaysia 2015年11月14日* 【単独, 国際】 9) 「相互行為に見られる調和：不調和を解消する相互行為の一方策としての否定疑問文」日本英語学会シンポジウム, 招待講演, 関西外国語大学, 2015年11月21日 【単独, 国内, 招待】 10) Entrenchment” of a grammatical

item in a multilingual world: An effective way of teaching and learning negative questions in English and in Japanese, 4th Combined conference of the Applied Linguistics Association of Australia (ALAA), the Linguistics Association of New Zealand (ALANZ), and Association for Language Testing and Assessment of Australia and New Zealand (ALTAANZ), Adelaide, Australia, 2015年12月1日【単独, 国際】

- ⑦ 1) 「大学で学べる英語学とは：英語らしい英語を話すためには」高校出前講義, 2015年8月5日, 諏訪青陵高校 2) 「大学で学べる英語学とは：英語らしい英語を話すためには」高校出前講義, 2015年8月20日, 諏訪双葉高校 3) 「英語らしい英語を話すためには」出前講座, 南信英語教員研修会, 2015年9月12日, 飯田高校 4) 「大学で学べる英語学とは：英語らしい英語を話すためには」高校出前講義, 長野吉田高校, 2015年10月10日 5) 「大学で学べる英語学とは：英語らしい英語を話すためには」高校出前講義, 2015年10月22日, 須坂高校 6) 日本英語学会大会運営委員／日本社会言語科学会発表賞選考委員

杉野健太郎

- ① 1) 単編著書(学術研究書)『映画とイデオロギー』, ミネルヴァ書房, 映画学叢書(加藤幹郎監修), 2015年4月5日 (ISBN-13: 978-4623072200) [単編著]。
 ⑥ 1) 学会口頭研究発表 “F. Scott Fitzgerald’s *The Great Gatsby* and Religion.” F. Scott Fitzgerald Society, Thirteenth International F. Scott Fitzgerald Society Conference 2015 (Waterford Institute of Technology, Ireland; Jul. 07). [単独・国際]。 2) 研究会口頭研究発表「ワーク・イン・プログレス F. Scott Fitzgerald と宗教——The Great Gatsby とモダンな信仰」, 日本 F. スコット・フィッツジェラルド協会2015年度第1回関西研究会, 2015年9月19日, 龍谷大学。 [単独] 3) 学会口頭研究発表「F. Scott Fitzgerald と宗教——The Great Gatsby とモダンな信仰」, 日本アメリカ文学会全国大会, 2015年10月10日, 京都大学。 [単独]
 ⑦ 1) 学会プロシーディングス「Easy Rider で映画とアメリカを教える」, 『中・四国アメリカ文学研究』No.51, 2015年6月, 45-49。 2) 学会役員：日本映画学会副会長・事務局長／日本英文学会中部支部理事／日本スコット・フィッツジェラルド協会評議員。 3) 松本県ヶ丘高等学校評議員 4) 長野高等学校 SGH (スーパーグローバルハイスクール) 活動「英語プロジェクト I 発表会」講師, 2015年9月5日, 長野高等学校。

飯岡詩朗

- ② 「遅れてきた男：『花嫁の父』(1950)における観客のいない演技者」『信州大学人文学論集』2 (2015)：197-217[単著]
 ④ 「DIY による新しい音楽／カルチャーの誕生 (『The Cockpit』『ワイルド・スタイル』)」Nagano Art+ (2月16日) <<http://naganoart-plus.net/?p=808>>
 ⑤ 「テレビ／映画批評としての *The Long, Long Trailer* (1954)」日本映像学会第41回全国大会 (5月31日, 京都造形芸術大学) [単独]
 ⑥ 1) [講演パネリスト]「オペラの前に「から騒ぎ」」信州大学人文学部・セイジ・オザワ松本フェスティバル主催 (7月7日, まつもと市民芸術館小ホール) 2) [NPO 法人コミュニティシネマ松本 CINEMA セレクト主催上映会アフタートーク] a) 『百円の恋』安

藤サクラ（まつもと市民芸術館，1月31日） b) 『わたしたちに許された特別な時間の終わり』太田信吾（松本市民中央公民館，2月21日） c) 『三里塚に生きる』代島治彦（松本市民中央公民館，4月19日） d) 『水の声を聞く』山本政志（まつもと市民芸術館，5月22日） e) 『野火』塚本晋也・森優作（まつもと市民芸術館，9月11日） f) 『ローリング』富永昌敬・三浦貴大・木滝和幸（まつもと市民芸術館，10月2日） g) 『私たちのハァハァ』松居大悟・井上苑子（まつもと市民芸術館，10月9日） h) 『SHARING』篠崎誠・山田キヌヲ（松本市民中央公民館，10月17日） i) 『過ぎる日のやまねこ』鶴岡慧子・中野弘基（まつもと市民芸術館，11月6日） j) 『いいにおいのする映画』酒井麻衣・金子理江（まつもと市民芸術館，11月13日） k) 『復習のドミノマスク』『マイカット』室谷心太郎・細身のシャイボーイ・小根山悠里香（Give me little more., 11月14日） 3) 日本映像学会『映像学』編集委員 4) 科学研究費補助金（基盤C）「一九五〇年代アメリカの映画・テレビにみる「男らしさ」の変容」研究代表者

星 久美子

② Kumiko Hoshi. “D. H. Lawrence and Hannah Höch: Representation of the Post-World War I World.” *Etudes lawrenciennes* 46 [査読有] Online. <http://lawrence.revues.org/244>

⑥ Kumiko Hoshi. “A. J. A. Symonds’ The Quest for Corvo: The Origin of Metabiography.” 国際学会 “Aftermath: The Cultural Legacies of World War I.” ロンドン（英国）

⑦ 1) 科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「「メタバイオグラフィー」の学際的研究を通じたモダニズム・ポストモダニズム再考」（研究代表者） 2) 科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「グローバル人材育成のための大学英語プレゼンテーション教育の学際的研究」（研究分担者）

渡邊匡一

② 1) 「真言宗以前」（『諏訪信仰の中世』，勉誠出版，239-258頁 [単著]

④ 1) 思誠寮生の青春日記展（3月3日～5月5日，旧制高校記念館）[監修]

⑤ 「寺院資料調査と文学研究」（シンポジウム「寺院調査から拓く文学研究」（仏教文学会，12月5日，キャンパスイノベーションセンター東京）[単独]

⑥ 1) 説話文学会委員（平成19年10月～27年9月） 2) 仏教文学会委員（平成22年4月～28年3月） 3) 全国大学国語国文学会編集委員（平成26年7月～28年6月） 4) 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）「中世後期真言宗寺院における学問形成についての基礎的研究（課題番号：22420175）研究代表者

松本和也

① 1) 『平田オリザ〈静かな演劇〉という方法』（彩流社，全233頁）[単著] 2) 『昭和一〇年代の文学場を考える 新人・太宰治・戦争文学』（立教大学出版会，全530頁）[単著]

② 1) 「挿絵画家・石井鶴三と子母澤寛（梅谷松太郎）——新出資料からみる『国定忠治』・『父子鷹』制作事情一面」（『信州大学附属図書館研究』，第4号，信州大学附属図書館，pp.1-19）[単著] 2) 「『北支物情』・『従軍五十日』の同時代評価——岸田國士の昭和一〇年代

を考えるために」(『立教大学日本文学』, 第113号, 立教大学日本文学会, pp.50-63) [単著]

3) 「〈箱〉と“書くこと”——村上春樹研究の更新にむけて」(『信州大学人文科学論集』, 第2号, 信州大学人文学部, pp.287-307) [単著] 4) 「川端康成「高原」連作の同時代受容分析」(『国語と国文学』, 第92巻第4号, 東京大学国語国文学会, pp.52-67) [単著] 5) 「藤野可織「爪と目」の話法」(『ゲストハウス』, 第7号, 『ゲストハウス』編集部, pp.9-18) [単著] 6) 「林語堂 *Moment in Peking* 翻訳出版をめぐる言説——日中戦争期の文学場一面」(『太宰治スタディーズ』, 別冊第2号, 「太宰治スタディーズ」の会, pp.10-24) [単著] 7) 「日中韓国際共同制作作品『祝／言』における「風」と「結び目」——“3・11”をめぐる多言語演劇」(『立教大学日本学研究所年報』, 第13号, 立教大学日本学研究所, pp.79-89) [単著] 8) 「小島信夫『抱擁家族』の本文形成——「四十代」・「眼」・「返照」」(『京都大学国文学論叢』, 第34号, 京都大学大学院文学研究科国語学国文学研究室, pp.27-38) [単著] 9) 「ペットロスの「私」による語りの戦略——江國香織「デューク」の教材研究」(『日文教 国語教育』, 第42号, 日本文学協会国語教育部会, pp.71-80) [単著]

⑤ 1) 立教大学出版会2014年度採択自著紹介「『昭和一〇年代の文学場を考える 新人・太宰治・戦争文学』」(『立教』, 第233号, 立教大学, p.61) [単著] 2) 「佐藤義雄著『昭和文学の位相1930—1945』」(『日本文学』, 第64巻第8号, 日本文学協会, pp.78-79) [単著]

⑥ 1) 「戦時下の芸術家——「一燈」・「鷗」」(「太宰治スタディーズ」の会, 2015年9月1日, 信州大学) [単独] 2) 「昭和一〇年代文芸時評からみた『若草』文壇時評」(『若草』研究会, 2015年12月19日, 日本大学) [単独]

⑦ 「平成27年度高齢者大学校「板橋グリーンカレッジ」前期文学科：太宰治「人間失格」を読む」(板橋区, 2015年6月15日・29日・7月6日・13日, 板橋区グリーンカレッジホール) [単独]

速水香織

② 1) 「『好色五人女』巻二における「ぬけ参り」の意味」(『皇學館論叢』第48巻6号, pp.1-26, 2015・12) [単独]

⑤ 1) 「鈴木俊幸・山本英二編『信州松本藩崇教館と多湖文庫』」(『信大史学』第40号, pp.92-96, 2015年11月) [単独]

⑥ 1) 「『岐蘇路安見絵図』の出版と宝暦期の江戸出版界」(皇學館大學人文學會第8回大会, 2015・7) [単独] 2) 「元禄末年の江戸出版界と上方浮世草子」(東海近世文学会9月例会(第256回例会), 2015・9) [単独]

⑦ 1) くわな市民大学文化科講座「『曾我物語』を読む2」(桑名市中央公民館, 全7回 2015・5～12) [単独] 2) 皇學館大學人文學會学外委員(2013・10～現在に至る) 3) 国文学研究資料館国文学文献資料調査員(2013・4～現在に至る) 4) 日本学術振興会科学研究費若手研究B・課題番号60556653「出版メディアを基盤とした江戸板浮世草子・俳諧及び作者の総合的研究」研究代表者

山田健三

② 1) 「連綿句読法」(単) 平成27年3月 『信州大学人文科学論集』2号(通巻49巻)。2)

「仮名のレドゥシール：鈴木広光『日本語活字印刷史』に学ぶ」（書評論文）（単著）平成27年11月 『名古屋大学国語国文学』108（名古屋大学国語国文学会）。3）「『成立期の仮名』をめぐる日本語書記システム史上の諸問題」（単著）平成27年11月 『日本史研究』639号（日本史研究会）。4）「〈かな〉と〈カナ〉のものがたり：日本語史学工房への招待」（単）平成27年12月 『都留文科大学国語国文学会会報』103

⑥1）「『いろは手本』考：上杉本『伊呂波盡』をめぐる」（単）平成27年4月25日 国語語彙史研究会（大阪大学）。2）「〈かな〉と〈カナ〉のものがたり：日本語史学工房への招待」（単）平成27年6月3日 都留文科大学国語国文学会春季講演会。3）「草体漢字と字体標準」（単）平成27年11月21日、シンポジウム「字体と漢字情報」（国立国語研究所）

⑦日本語学会編集委員

白井純

②1）「松本藩版『兵要録』—活字本から整版へ—」（鈴木俊幸・山本英二編『信州松本藩崇教館と多湖文庫』, pp.192-214, 新典社）, 2）「原田版『こんてむつすむん地』の版式について」（『訓点語と訓点資料』135輯, pp.L1-L17, 訓点語学会）

⑥「分節記号としての「？」」（第3回キリシタン語学研究会, 京都府立大学, 2015.10.4）

⑦「『ひですの経』の言語的特徴によるイエズス会の言語規範の批判的再検討」（平成24～27年度科学研究費若手研究(B)）

沖裕子

②「松本方言終助詞の文法体系—談話研究の基礎—」（『信州大学人文科学論集』第2号, pp.233-250）[単著]

⑥ 招待講演「基調講演 異文化交流と日本語教育：日中依頼談話の異同」（2015年8月29日（土）, 於中国黒竜江大学, 2015年異文化コミュニケーションと日本語教育国際シンポジウム）[単独・国際]

⑦1）日本語教育学会学会誌査読協力者 2）日本語学会評議員（2003年9月～2015年3月） 3）社会言語科学会編集委員会外部査読者（2015年2月～5月） 4）社会言語科学会発表賞審査委員会委員（2015年4月～2017年3月） 5）韓国日本語学会理事（2014年1月～2017年9月） 6）長野・言語文化研究会会長（2015年4月～） 7）八十二文化財団理事（2015年4月～） 8）国立国語研究所基幹研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」共同研究者 9）日本学術振興会科学研究費基盤研究C・課題番号15K02561「対照談話論による日本語談話の発想と表現の研究」研究代表者（2015年4月～2018年3月）

坂口和寛

②坂口和寛・河野俊之「映像化ストラテジーにより類義語の正用文から想起される「映像」の特徴—日本語教育経験者の例文分析過程からわかること」『信州大学国際交流センター電子紀要』論文番号10（2015年3月）